

[課程-2]

審査の結果の要旨

氏名 新田 大介

本研究は重症心不全患者に対する体外式補助人工心臓装着患者において、左室補助人工心臓のみならず右室補助人工心臓装着を要する患者に関する術前予測因子を検討し、新たなスコアリングの構築を試みた検討であり、下記の結果を得ている。

2004年から2015年の間に当院にて体外設置型補助人工心臓を装着した連続70症例において、左室補助人工心臓に加えて右室補助人工心臓を装着した患者は14例であった。この14例と左室補助人工心臓のみを装着した残りの56例において、右室機能に関わる様々な血行動態指標を含めた術前臨床的データを比較検討し、右室補助人工心臓装着に関する危険因子を解析したところ、最終的に多変量解析において術前の肺血管抵抗 >4.5 wood unit、及び平均右房圧/平均肺動脈楔入圧比 >0.8 の二つの因子が有意となった。これらの因子のオッズ比に基づき、肺血管抵抗 $>4.5=1$ 点、平均右房圧/平均肺動脈楔入圧比 $>0.8=2$ 点として新たなスコアリングを作成したところ、この簡便なスコアリングシステムは従来報告されてきた既存の予測スコアと比較してより正確に右室補助人工心臓装着に関して予測することが可能であった。

以上、本論文は体外設置型補助人工心臓装着患者において、左室のみならず右室補助人工心臓を要する患者に関して術前因子から予測するための新たなスコアリングを構築した。特に右室補助人工心臓装着は予後悪化に寄与することが報告され、今後の補助人工心臓治療において本スコアリングが果たす役割は重要であると考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。